

大石小(坂井)の畑 10年ぶり復活

坂井市大石小学校の敷地で、大石地区まちづくり協議会が畑を整備した。コロナ禍などで整備活動が途絶えていたが、地域の学校を盛り上げようと約10年ぶりに復活。9日は、同校の2年生35人が生活科授業の一環で夏野菜の苗を植えた。

(坂本 碧)

地元まちづくり協が整備



まちづくり協議会のメンバーらに教わりながら野菜の苗を植える児童たち＝坂井市大石小学校で

2年生、ナスなど夏野菜の苗植え

児童たちは整備活動が途絶えていた間も畑の一部を使っていたが、十分な広さはなく、2年生の授業ではプランターを使って野菜を育てていた。今年は協議会のメンバーらが4月中旬から、草刈りや土を起すなどして10畝の畑を準備。児童たちの話し合いで、畑は「みどりのうえん」と名付けられた。

この日、植えた苗はオクラやナスなど5種類。児童たちは農業に詳しい協議会メンバーの助言を受けながら、苗を植えていった。藤川幸士君(7)は「ちゃんと育つかどうか心配。あまり好きではないナスも食べてみたい」、無江奏斗君(7)は「新鮮なキュウリができるのが楽しみ」と話していた。

協議会の岡部恭典教育文化部会長は「今後も1年を通して学校と連携し、伝統野菜の栽培などの活動をしていきたい」と話した。